

議題案（2）ESDのSDGsへの貢献について

・SDGsと、ESDとは同じなのですか。

持続可能な社会・世界を目指した国連の取り組みとしては全く変わりません。ESDは「E・教育」を中心に進めています。SDGsは、そのゴール（G・目標）を（s・複数）列挙して、関係省庁や企業・自治体等も参画しやすくしたものです。

しかし、どんな取り組みでも人々が本気にならない限り、持続可能な世界は実現できません。人の心に生涯消えない火を灯すのは、教育抜きには不可能です。イベントや成果競争だけではその場限りの取り組みにしかありません。

・ということはSDGsの推進においてもESDが重要であり続けるのですね。

そうです。八名川小学校のESDがSDGsアワードで受賞した理由もそこにあるのです。ESDを踏まえた学習指導要領の考え方で学校教育をきちんと進めると、SDGsの全ての課題を小学校の6年間で網羅することができるのです。（パンフレット型紀要を開いていただき、八名川版ESDの「何を学ぶか」で示した「SDGs実践計画表」をご覧ください。これもSDGsを視点としたカリキュラム・マネジメントの具体例と言えます）

持続可能な社会を実現し続けるためには、だれもが、社会のそして世界の問題に気づき、それについて学び、調べ、語り合い、実践を通じてより良い社会を実現し続けていかななくてはなりません。単なる知識だけの人間は通用しない時代なのです。

・そのあたりに従来の教育とESDとの違いがありそうですね。

基礎的な知識も理解力も重要であることは変わりません。しかし、今の時代ではスマートフォンが1つあれば、どんな知識も一瞬で、誰にでも手に入れられるのです。求められているのは問題に気づく力であり、その解決のために視点をもって様々な知見を組み合わせ活用を図る能力、また、自分と異なる考えにも耳を傾け、新たな視点から考え直せる力なのです。

・それは、従来の日本の学校教育では育ちにくい力ですね。

そうです。だから『ESDカレンダー』による学年毎の学びの構造化（カリキュラム・マネジメント）が必要であり、『学びに火をつける』ことや発表する場面を用意することで（主体的・対話的で深い学び）を実現するのです。それが『ESDの学び』であり、学習指導要領に前文として示された教育改革の中心課題なのです。つまり、日本の学習指導要領は国際連合や日本政府が推進しているSDGs成功の鍵を握っていると言えるのです。

・学校教育が日本の未来を変えるのですね。でも学校だけで良いのですか。

ESDが学習指導要領を通じて日本の未来を変える力を発揮できればSDGsへの偉大な貢献ができます。さらに、企業や自治体・関係機関がSDGsを推進する際に、教え込みや、成果を競わせる従来型の取り組み方法、あるいはイベント型・コンクール型の取り組みの愚かさについてESDの視点から声を大にして戒めなくてはなりません。学びのないところには本気で取り組む人間が育たないのです。イベントで世界は変えられません。そのような学びの時代を拓くための資料がこのパンフレットであり、実践を踏まえた研究冊子です。ご活用ください。そして、ESDの学校づくりについて、どのように考え、どのように進めたら良いのか、具体的にまとめたのが「学校発・ESDの学び」という書籍です。ESDは、形だけまねしても上手くいきません。元になる考え方を踏まえて、これらをご活用ください。